

消

こんにちは！
費生活相談室です 76

消費生活相談室 (☎47-1106 FAX44-7957)

- ◇脱水中に蓋を開けても、15秒以内で止まらないこと
- ◇電源コードが折れ曲がったり破損している。
- ◇洗濯機
- ◇モーター部分が異常に熱かったり、焦げ臭いにおいがする。
- ◇回転するときに異常な音や振動がする。
- ◇扇風機・換気扇
- ◇例えば、次のような症状が出ていませんか？
- ◇長年ご使用の家電製品にこんな症状が出ていませんか？
- ◇長年ご使用の家電製品は、熱、湿気、ホコリなどの影響により、内部部品が劣化し、発煙・発火のおそれがあります。

経済産業省からのお知らせです

- ◇長年ご使用の家電製品にこんな症状が出ていませんか？
- ◇電源コードやプラグが異常に熱い。
- ◇ブレーカーが頻りに落ちる
- ◇室内機から水漏れがする。
- ◇ブラウン管テレビ
- ◇上下、または左右の画像が欠けて映る。
- ◇映像が連続してチラツいたり、揺れたりする。
- ◇使用中に「いつもと違う」「ちよつとおかしい」など異常を感じた場合は、電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店またはメーカーにご相談ください。
- ◇家電製品が原因と思われる事故にあわれた場合は、家電製品PLセンター (☎0120-551110) にご相談ください。

み

みんなで拓く人権文化 62

地域振興課人権政策室 (☎47-1102)

楽しいって何ですか

あるおばあさんは、戦後の混乱した時代に子どもを育て、地域社会の発展を支えてきました。そんなおばあさんも、最近気弱になり、不安になるようです。「おばあさん、よく働いて楽しかったころのこと、何を思い出しますか。」孫の問いかけに、おばあさんは思い出を語り、家族はおばあさんの話に聞き入ります。

あるおじいさんは、近所の人もめごとになり、仲裁の人から「人の世話になるかもしれない年齢のくせに、自分のことばかり言い張って。」と言われました。「先の短い年寄りだからこそ、自分の考えを通そうとする。年寄りのくせにとか言うのはおかしい。自分の考えを主張するのは当然だ。」と言い返す人もいます。

子どもが高齢者を訪ねて交流する機会がありました。「この人は体が動かないから何もできないと決めるのはよくないよ。」

「高齢者だって、世の中の出来ごとを知りたい、だれかとふれあいたいと思う人もいるのだ。」

「私はこの人を避けてしまいかもしれないと思ってたのに、逆に大丈夫かとお遣いをしてもらった。」

「その人にとって楽しかったことは、私には感じられないかもしれないが、私は、高齢者から勇気を与えてもらった。」と子どもたちは言っています。

一人ひとりが家庭や地域社会から支えられ、安心して暮らしていける社会をつくるのが、私たちの課題です。

(人権教育推進員 佐賀有道)

今月のサロンコンサート

「トリプルコンサート
唱歌メドレー『ふるさとの四季』を歌う」
月とき・ところ 9月19日(金)午後7時30分～8時40分
文化ホール(入場無料)

月出演 境港市民合唱団 ハーフエンコール
女声合唱団 沙羅、男声合唱団 JAWS

今回は混声、女声、男声、独唱で構成した「ふるさとの四季」メドレーをメインに市内合唱団が素敵な歌声を披露します。人間の持つ楽器(声のハーモニー)をお楽しみください。

(問合せ先 生涯学習課文化体育係 ☎47-1093)



お忘れなく！

国民健康保険税第3期
固定資産税第3期分の
納期限は
9月30日(火)です。

※便利な口座振替をご利用ください。

図書館に行こう！

(市民図書館 ☎47-1099)

1〜2歳児。「ぶくちゃんえほん」シリーズ。よちよち歩きができるようになったぶくちゃんのささやかな冒険。

『ぶくちゃんの とことこあんよ』 ひろかわさえこ

『麦わらの絵本』 かねこてるひこ:編 よしだとしみ:絵

『読んでおきたい 日本の名作』 斎藤孝

『忍びの国』 和田竜

『東京読書』 坂崎重盛

高校生以上。明治以降の東京を語る134冊の本の上を軽やかに散歩するようだ。東京をスキップしたい人へ。

『忍びの国』 和田竜

『東京読書』 坂崎重盛

今月の新規・寄贈図書

◇パートナー(森詠) ◇百年の愚行(三ink the Earth プロジェクト編) ◇百歳回想法(黒川由起子) ◇誠道中学(誠道中学校開校60周年記念事業実行委員会編) ◇悪果(黒川博行) ◇斜陽に立つ(古川憲) ◇優しくしたいのにできない(アール・グロルマン) ◇主を七人替え候(小松哲史) ◇軍国昭和 東京庶民の楽しみ(青木宏一郎) ほか計286冊

戦後、神武景気と賑わっていた頃、近代化の波に押されて「浜かすり」はほとんど廃れていました

昭和三二年、東京で民芸の研究を続けていた嶋田太平・悦子夫妻は民芸運動の父といわれる柳宗悦の甥で染織家の柳悦孝・悦博兄弟から「浜かすり」の保存のアドバイスを受け、浜かすりの世界に入ります。

昭和四四年に帰郷。悦子さんの実母、稲岡文字さんの協力を得て稲岡家の屋敷内に「かすり工房」を開設し保存運動の先頭に立ち、古老を訪ねては技術指導を受け「浜かすり」の伝承に努めました。

民芸ブームにのり、工房は順調に進展して行くなか、昭和五〇年弓浜かすり織物協同組合を結成するとともに、国の「伝統的工芸品弓浜餅」の指定を受けます。

昭和五三年、県教育委員会は「弓浜餅」の製造技術を、県の無形文化財に指定、併せて「弓浜餅保存会」を技術継承保存する保持団体に認定しました。



機を織る嶋田悦子さん

昭和五三年、保存運動の志半ばで嶋田太平氏が急逝。夫亡き後、嶋田悦子さんは伝統保存の第一線に立ち現在も弓浜かすり伝承館の主任講師として後継者研修生に浜かすりは「技術は習うより慣れる」と論じています。

民芸とは「民衆的工芸」の略語で民芸品とは「一般の民衆が日々の生活に必要とする品」で「民衆の暮らしから生れた手仕事文化である」といいます。

そして民芸美は「無心の美」「自然の美」「健康の美」であると柳宗悦は説いています。

貧しい農家の女性たちが家族のために祈りにも似た愛情からただひたすら織った浜かすり。浜綿のあの手触りと弾力。浜の風土に馴染んだ綿や餅は昔のものになりました。

本物の浜餅復活には、純粹な浜綿が必要と有志が集まり「コットンプロジェクト」を組織し、綿栽培から始まる地道な運動が興っています。

(市史編さん室 小灘浩)